

各 位

2026年1月8日
株式会社インプレス

Microsoft 365 Copilot に仕事をどんどん任せたくなる！『Microsoft 365 Copilot 踏み込み活用術』を1月8日（木）に発売

インプレスグループでIT関連メディア事業を展開する株式会社インプレス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：高橋隆志）は、企業向け生成AIサービス「Microsoft 365 Copilot」（マイクロソフト・サンクゴ・コパイロット）を、実際のビジネス現場で使いこなすためのノウハウや考え方、その前提知識を解説した書籍『Microsoft 365 Copilot踏み込み活用術（できるビジネス）』を2026年1月8日（木）に発売いたします。



■「使いどころ」に悩む現場へ。Copilotに“ちゃんと頼る”ための実務直結型解説書

2022年末の生成AIブーム到来以降、多くの企業でDX推進の一環としてAIの導入が加速しています。中でも「Microsoft 365 Copilot」は、WordやExcelといった普段使い慣れたOfficeアプリで生成AIが使えることから、急速に普及が進んでいます。一方、現場では「機能が多すぎて何から始めればいいか分からぬ」「指示の仕方が分からず、期待通りの結果が出ない」といった悩みを抱える人もいます。

本書は、こうした課題を解決し、ユーザーが「Copilotにちゃんと頼れるようになる」ことを目指して企画されました。著者はMicrosoft 365の導入支援のプロであり、Microsoft MVP for M365の受賞者でもある太田浩史氏。日常の業務フローの中でCopilotをどのように呼び出し、どのような役割を任せればよいのかを、実務に即した形で体系化しています。「使いこなす」ハードルを下げ、誰もが自信を持ってCopilotに仕事を任せられるようになるための、実践的なガイドブックです。

■Excelの集計からプレゼン作成まで。日常業務を確実にサポートする「踏み込み」活用術

本書の最大の特徴は、単なる機能の羅列ではなく、ビジネスの現場で頻発する具体的なシーンに踏み込んだ使い方を解説している点です。「Excelで数式のエラー原因を特定させて修正する」「Wordの原稿をもとにPowerPointでプレゼン資料の構成案を作らせる」「Outlookで相手に配慮したメール文面になっているか客観的なアドバイスをもらう」など、アプリごとの特性を生かした具体的な「頼り方」を豊富に収録し

ています。さらに、自分専用のAIアシスタントを作成できるエージェント機能も解説しており、一步進んだ業務効率化を目指せます。

また、Copilotに的確に動いてもらうために不可欠な「業務を単純な作業に分解する視点」や「コンテキスト（文脈）の与え方」といった思考法も丁寧に解説しています。これらを身につけることで、読者はAI任せにするのではなく、まさに「副操縦士」（コパイロット）として適切にコントロールし、自身の業務パフォーマンスを最大化できます。進化が激しいCopilotにおいても、長く役立てることができる「普遍的な活用スキル」が身につく一冊です。

■本書に収録しているワザの例

- ・アプリ内のボタンを押すことから活用が始まる
- ・自分の情報や好みを踏まえて回答してもらう
- ・集計用の数式を作成してもらう
- ・プロンプトだけでプレゼン全体を作成してもらう
- ・自分で書いたメールにアドバイスをもらう
- ・会議に遅れても経過をまとめて確認できる
- ・動画や音声ファイルの内容を効率よく確認する
- ・似たようなファイルを比較する
- ・FAQエージェントに社内の問い合わせを任せる

■本書は以下のような方におすすめです

- ・会社でMicrosoft 365 Copilotが導入されたが、具体的な「頼り方」がわからず困っている方
- ・メールの返信や議事録作成、資料の下書きなどのルーチンワークを効率化したい方
- ・意図通りの回答が得られず、Copilotの活用をあきらめかけていた方
- ・社内のDX推進担当者や、チームメンバーにCopilotの実践的な活用を広めたい方

■紙面イメージ

The image shows a composite of several screenshots from the book. At the top, a title slide for 'Excelの数式エラーを解説してもらう' (Explaining Excel formula errors) is shown. Below it, a section titled '数式エラーの原因を紐解く' (Explaining the causes of formula errors) contains a table of data and a screenshot of the Microsoft Copilot interface. The Copilot interface shows a message asking for a reason and a proposed fix for a SUMIFS error. The book's navigation bar on the right indicates it's Chapter 3, Section 4. Further down, there are two more examples of the Copilot interface, each showing a different formula error and a proposed fix. The bottom of the image includes a page number (112) and a footer stating 'Microsoft 365 Copilotのノウハウを、本文と図版、操作手順を交えて解説しています。' (Explained using text, diagrams, and operational procedures).

生成AIと Microsoft 365 Copilot

概要

Microsoft 365 Copilotとは

近年、「生成AI」という言葉を耳にする機会が増えました。生成AIとは、文章や画像、コードなどを自動で生成するAIです。OpenAIのChatGPTやGoogleのGemini、XのGrokなど有名で、利用している人も多いかもしれません。

Microsoft 365 Copilotは、この技術をビジネスの現場で活用できるようにしたサービスです。AIとのチャット機能に加え、WordやExcel、PowerPoint、Outlook、Teamsといった主要アプリに組み込まれ、議事録からの報告書作成やデータ分析、資料の下書き、メールの要約など、普段の作業を強力に支援してくれます。

特徴的なのは、すでに多くの人が日常的に使っているアプリの中に組み込まれている点です。新しいツールを覚えることなく、いつもの作業の延長線上で自然にAIの支援を受けられるため、特別な準備なしに使い始めることができます。

Microsoft 365 Copilotは、一部の専門家だけのものではありません。Microsoft 365ユーザーであれば誰もが使える、身近な相棒なのです。

Microsoft 365の主要アプリに組み込まれるCopilot



Microsoft 365 Copilotは生成AIとチャットできるだけでなく、生成AIを活用したさまざまな機能が各アプリに組み込まれていることも特徴の一つ。

従来のAIとは違う生成AIの特徴

Microsoft 365 Copilotの特徴を理解するには、先に生成AI自体の特徴を知る必要があります。以前からあるAIは、あらかじめデータから学習した結果に従い、識別や分類、予測など特定のタスクに特化し「決められたことを素早く行う」ことが得意です。例えば、請求書などの文字や数字を読み取って仕分けたり、過去のデータから将来の売上を予測したりするような用途で使われています。

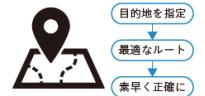
一方で、生成AIは少し違います。「この会議の要点を3つにまとめて」「この資料を営業向けに書き換えて」といった、あいまいな依頼にも対応できます。

従来のAIはカーナビのようなイメージです。膨大な地図データの中から、最短距離、有料道路回避などの与えられた条件に合う最適なルートを素早く検索してくれます。あくまで地図という正解の中から、最良の答えを探し出すのが役割です。

生成AIは、優秀な運転手に近い存在です。「景色のよい道を通りたい」「どこか面白い場所に寄り道したい」といった曖昧な会話から意図をくみ取り、地図には載っていない楽しみ方や新しいドライブプランをその場で考え、提案してくれます。

従来のAIと生成AIの違い

これまでのAI=カーナビ



生成AI=運転手



自動化ツールとの違い

業務効率化アリには、マクロやRPAなどの自動化ツールもあります。これらは、決まった手順を正確かつ自動的に繰り返すのが得意です。

対して、生成AIは「これらの資料を読みやすくまとめて」や「このデータから気付くことを教えて」といった曖昧な依頼から、文章の作成や要約、アイデア出しなど多様な作業を助けてくれるのが特徴です。従来のツールが「決まったことを行う」ものなら、生成AIは「考える作業を助ける」ツールといえます。

毎回同じ結果を出すことは苦手ですが、「正確さ」よりも「柔軟さ」や「発想力」を生かす場面でこそ、Copilotは力を発揮します。

Microsoft 365 Copilotの基礎知識や使ううえでの考え方なども解説しています。

■本書の構成

- 第1章 Copilotの基本と導入
- 第2章 Copilotチャットの活用
- 第3章 Excel・Word・PowerPointでの活用
- 第4章 Outlook・Teamsでの活用
- 第5章 その他のアプリでの活用
- 第6章 エージェントの作成と活用
- 第7章 活用の考え方とマインドセット

■書誌情報



書名：Microsoft 365 Copilot踏み込み活用術（できるビジネス）

著者：太田浩史

発売日：2026年1月8日（木）

ページ数：304ページ

サイズ：A5正寸

定価：2,200円（本体2,000円+税10%）

電子版価格：2,200円（本体2,000円+税10%）※インプレス直販価格

ISBN：978-4-295-02340-1

◇Amazonの書籍情報ページ：

<https://www.amazon.co.jp/dp/429502340X>

◇インプレスの書籍情報ページ：

<https://book.impress.co.jp/books/1125101095>

◇書影（高解像度）ダウンロード：<https://dekiru.net/press/502340.jpg>

■著者プロフィール

太田 浩史（おおた ひろふみ）

株式会社内田洋行所属。1983年生まれ、秋田県出身。いまはすっかりサイクリングにハマり、自転車で巡りながらマンホールカードを収集している。2010年に自社のMicrosoft 365（当時BPOS）導入を担当したことを見つかけに、多くの企業のMicrosoft 365導入や活用の支援をはじめる。Microsoft 365に関わるIT技術者として、社内の導入や活用の担当者として、そしてひとりのユーザーとして、さまざまな立場の経験から得られた等身大のナレッジを、登壇や執筆活動などを通じて発信している。「せっかく使うなら、Microsoft 365をもっと楽しく」がモットー。2013年からMicrosoftにより個人に贈られる「Microsoft MVP Award」を連続受賞中。著書に『Microsoft Teams踏み込み活用術 増強改訂版（できるビジネス）』『Power Automateではじめる業務の完全自動化（できるエキスパート）』『できるポケット 必修アプリ超活用 Microsoft Teams全事典 改訂版』（インプレス）。

以上

【株式会社インプレス】 <https://www.impress.co.jp/>

シリーズ累計8,000万部突破のパソコン解説書「できる」シリーズ、「デジタルカメラマガジン」等の定期雑誌、IT関連の専門メディアとして国内最大級のアクセスを誇るデジタル総合ニュースサービス「Impress Watchシリーズ」等のコンシューマ向けメディア、「IT Leaders」をはじめとする企業向けIT関連メディアなどを総合的に展開・運営する事業会社です。IT関連出版メディア事業、およびデジタルメディア&サービス事業を幅広く展開しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：塚本由紀）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

【本件に関するお問合せ先】

株式会社インプレス 広報担当：丸山

E-mail: pr-info@impress.co.jp URL: <https://www.impress.co.jp/>

※弊社はテレワーク推奨中のため電話でのお問合せを停止しております。メールまたはWebサイトからお問合せください。